

ピトウル・パクシャ

先祖にささげる2週間

スワーミ・シャーナーナンダ

「先祖の2週間」として知られるピトウル・パクシャは、インドの太陰暦のバードラパダの月、グレゴリオ暦では大抵9月と10月の間に行われる15日間の行事です。

サンスクリット語でピトウルは「先祖」を、パクシャは「2週間」または陰暦の月の一つの「側」を意味します。ヴェーダの太陰暦によると、一つのパクシャは15のティティ、すなわち陰暦の15日間から成ります。陰暦の一月にはパクシャが二つあり、それらは満月の日の両側、つまり、その前の2週間とそれに続く2週間です。シュクラ・パクシャ、明るい2週間は、アマーヴァーシャ、新月の後の15日間から成り、それは月が満ちていく時で、満月、プールニマーで最高潮に達するまで、日々その明るさが増していきます。クリシュナ・パクシャ、暗い2週間は、満月の後に始まり、日ごとに月が欠けていく時で、やがて完全に闇になります。明るい2週間は成長や発展に関連付けられる一方、暗い2週間は内省、熟考、浄化、変容に関連付けられます。

ピトウル・パクシャの行事はプラティパーダ——ガネーシュ神をたたえる祝祭、ガネーシュ・ウツトウサヴァを締めくくる満月の後の最初の日——に始まります。これは、ピトウル・パクシャが月の暗い2週間、クリシュナ・パクシャの間に行われ、サールヴァピトウル・アマーヴァーシャ、すなわち「先祖すべての新月」に終了することを意味します。ほとんどの年、秋分はこの期間、太陽が北半球から南半球に移行する時期に訪れます。ヴェーダの伝統の教典では、南の方角は先祖たちと関連している場所であると考えられています。従ってピトウル・パクシャは、自然の推移や、この期間のさまざまな天体の動きに帰する伝統的な重要性に合致しているのです。

ピトウル・パクシャの慣習は、インドの古代ヴェーダの伝統にその起源があります。ピトウル・パクシャは、『ガルダ・プラーナ』や『ヴィシュヌ・プラーナ』などの教典の中で、私たちに知恵、保護、愛、または物質的な富という財産を残した先人たちを敬い、感謝の意を表す力強い時であると述べられています。ヴェーダの伝統では、「先祖」とは具体的には両親、祖父母、曾祖父母を指します。実際には、ピトウル・パクシャでは多くの人々が、亡くなった配偶者、子、兄弟姉妹、伯母・叔母、伯父・叔父、義理の両親や、友人、隣人、先生、師、さらには愛する動物も敬います。

先祖、友人、師、恩人たちがあなたに与えた影響を振り返ることによって、手本となる人物としての、また学びの源としての、彼らの奥深い重要性に気づくでしょう。彼らはあなたを導く光であり、あなたが何者か、何者になったのかに影響を与えました。彼らは、あなたが人生において進むべき道を築いたのです。

シッダ・ヨーガの教えは、私たちが愛する人たちとのつながり——そして実際にはこの宇宙のすべてとのつながり——が、物理的な領域を超越するものであるという知識を伝えています。肉体がこの惑星での活動をやめる時、永遠の大いなる自己、アートマンは存在し続けます。同様に、私たちの愛する人たちがこの世界に残した痕跡は永遠です。シッダ・ヨーガの道でピトウル・パクシャの間に私たちが認識し、祝うのは、永遠の大いなる自己であり、私たちの愛する人たちが成し遂げた永遠の貢献です。

ピトウル・パクシャの慣習

インドの教典によると、生きている人が祈りや祝福や精神修行の成果を亡くなった人たちのためにささげることは、ダルマ、すなわち義務です。そのようにして、私たちは魂がこの地球を去った人々を敬い、彼らの旅を支えます。

ピトゥル・パクシャの間、私たちはシッダ・ヨーギとして、私たちの精神修行——祈り、瞑想、ダクシナー¹のささげ物、チャンティング、マントラの復唱、「シュリー・グル・ギター」の朗唱などのスワーディヤーヤ——を亡くなった人たちにささげることができます。また、肉体を超越する永遠の大いなる自己、私たちの愛する人たちの魂をたたえるために、ウパニシャッド^E や『シュリー・バガ ヴァッド・ギター』^Fからの美しい祈りを朗唱することもできます。

ピトゥル・パクシャの間には伝統的な慣習があり、それは先祖に代わって慈善活動を行うことです。困っている人々に食べ物を寄付したり、サンニャーシ、僧侶たちを礼遇したり、貧しい子どもたちの教育を支援するために献金したり、また、先祖が行っていた慈善活動を引き継いで進めたり、寄付をしたりします。亡くなった大切な人たちを敬うために、生命の象徴である木を植える人もいます。さらに、先祖に敬意を表すもう一つの方法は、私たちが培いたいと願う先祖たちの素晴らしい資質や美徳について振り返ることです。

推奨される節制

この期間、亡くなった先祖や愛する人たちを敬うことに集中できるように、新しいプロジェクトや大きな事業を始めること、あるいは結婚、そして長い距離の旅行などを控えることが、伝統的に推奨されています。ピトゥル・パクシャの間に縁起が良いとされる旅行は、巡礼または精神修行として行われるものです。

